

**2016年度(2017年3月期)
第2四半期決算説明会**

2016年10月26日

株式会社アドバンテスト

ご注意

◆会計基準の変更

当社は2015年度の有価証券報告書から、国際会計基準(IFRS)の任意適用を開始しました。本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST.

2016年度第2四半期 決算報告

取締役 兼 常務執行役員
中村 弘志

業績概要

(億円)

	2015年度 2Q	2016年度 1Q	2016年度 2Q	前期比		前年同期比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	271	438	285	-153	-34.9%	+14	+5.3%
売上高	461	407	355	-51	-12.6%	-107	-23.1%
売上総利益	242	253	210	-42	-16.7%	-31	-12.8%
売上総利益率	52.3%	62.2%	59.3%	-2.9pts		+7.0pts	
営業利益	42	57	26	-32	-55.0%	-16	-38.6%
営業利益率	9.1%	14.1%	7.3%	-6.8pts		-1.8pts	
税引前四半期利益	36	62	29	-32	-52.5%	-6	-17.2%
四半期利益	12	50	23	-27	-54.1%	+11	+87.1%
四半期利益率	2.6%	12.2%	6.4%	-5.8pts		+3.8pts	
受注残	288	365	295	-70	-19.2%	+7	+2.4%
為替レート	1米ドル	123円	111円	104円	7円 円高	20円 円高	
	1ユーロ	137円	124円	116円	9円 円高	21円 円高	

ADVANTEST.

2016/10/26

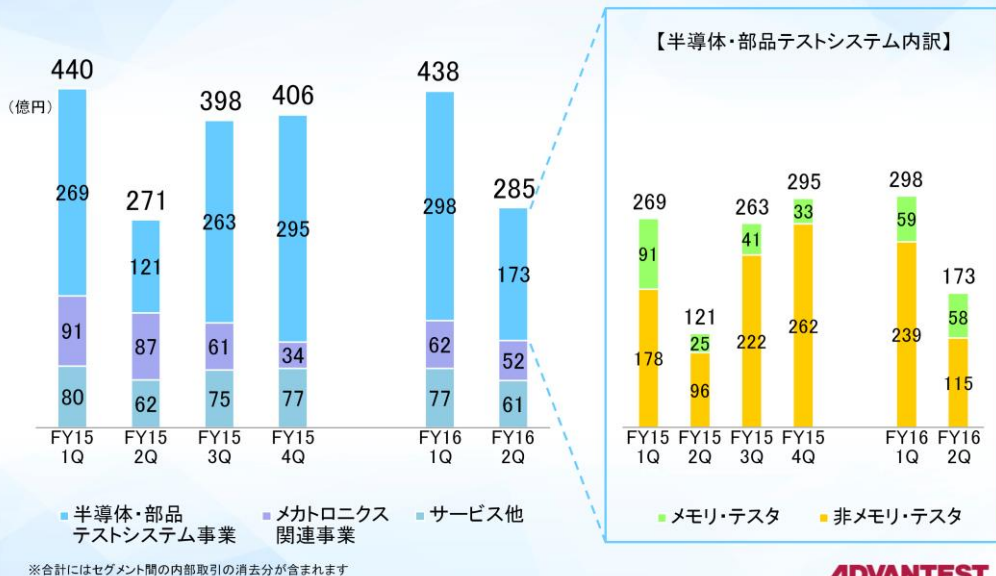
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

○ 2016年度第2四半期の業績概要

- 受注高 285億円 前期比 34.9%減
 - 売上高 355億円 前期比 12.6%減
 - 売上総利益 210億円 前期比 16.7%減
 - 営業利益 26億円 前期比 55.0%減
 - 税引前四半期利益 29億円 前期比 52.5%減
 - 四半期利益 23億円 前期比 54.1%減
- 円高ドル安が進んだこと、季節性の非メモリ・テストの需要減少、1Qが想定以上に好調だったこと、の3つが重なり、軒並み前期から数字が落ち込んだ
 - 同様に季節性のテスト需要減少が起きた前年同期と比較すると、大きな円高影響を受けているにも関わらず受注高では上回っており、事業環境は崩れていないと認識

四半期受注高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2016/10/26

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

○ 2016年度第2四半期のセグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比 42%減 173億円
うち非メモリ・テスト 115億円 と、前期比大きく落ち込んだ
メモリ・テスト 58億円 と、前期比横ばい
- ・ ローエンド／ミッドレンジ・スマートフォン関連のテスト新規発注が一巡した影響により、非メモリ・テスト受注が大幅減

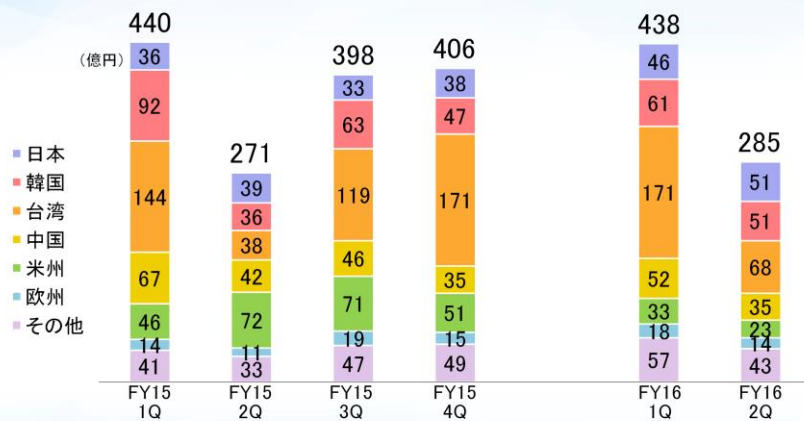
○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比 17%減 52億円
- ・ ナノテク事業の受注が減少

○ サービス他

- ・ 前期比 21%減 61億円
- ・ 季節性による保守契約の減少

四半期受注高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2016/10/26

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

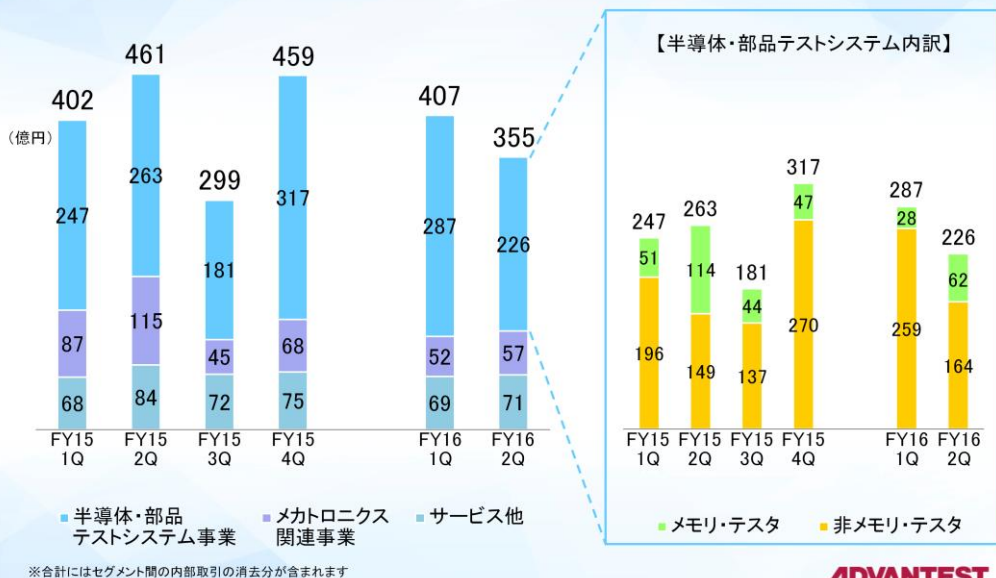
○ 2016年度第2四半期の地域別受注

- 日本以外は全体的に減少
- 前期比で変動が大きかった地域

台湾

ローエンド／ミッドレンジ・スマートフォン関連の
テスト投資一巡の影響

四半期売上高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2016/10/26

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

7

○ 2016年度第2四半期のセグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比 21%減 226億円
 うち非メモリ・テスト 164億円 と、前期比大幅に減少
 メモリ・テスト 62億円 と、前期比大幅に増加
- ・ 受注ほどではないが、ローエンド／ミッドレンジ・スマートフォン関連のテスト増設ペースが鈍化
- ・ メモリ・テストは、DRAMテスト受注が回復

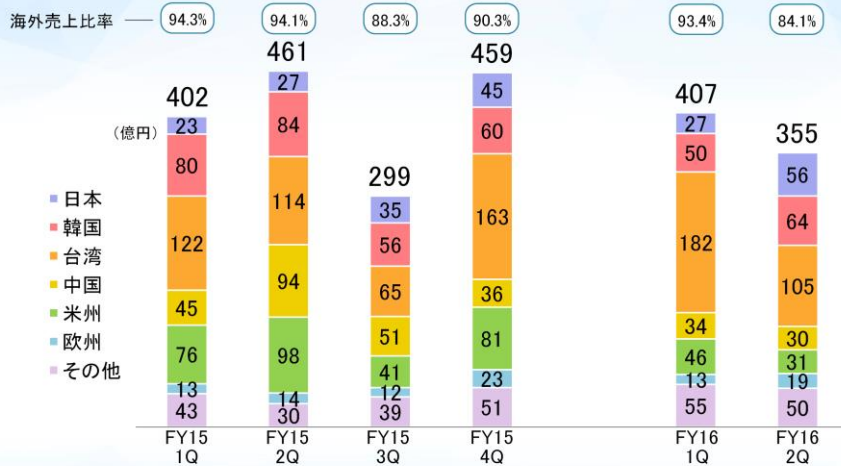
○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比 11%増 57億円
- ・ メモリ・テスト需要の回復に沿って、デバイス・インタフェース事業の売上も回復

○ サービス他

- ・ 前期並み 71億円

四半期売上高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2016/10/26

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

8

○ 2016年度第2四半期の地域別売上高

- 前期比売上高の変動が大きかった地域

台湾

受注同様、スマートフォン関連のテスト投資一巡による減少

日本

高性能な車載デバイス向けのテスト需要が伸びた

日本の売上比率が7%から16%に伸びた

これらの結果、海外売上比率 84.1%

売上高/売上総利益/営業利益



ADVANTEST.

2016/10/26

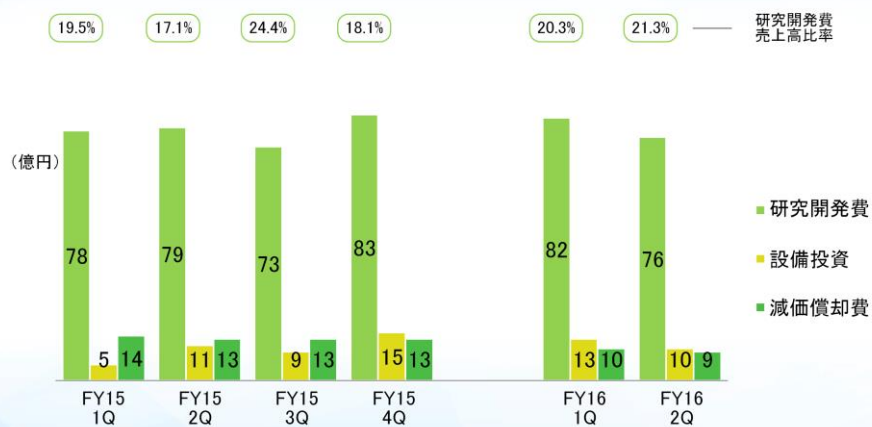
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2016年度第2四半期の営業利益

- 売上総利益
 前期比 42億円減 210億円
- 売上総利益率
 前期比 2.9ポイント悪化 59.3%
 前期比悪化も、4四半期連続で60%近辺を維持
- 販管費等
 前期比 11億円減 184億円
 賞与引当金が減少したため
- 営業利益
 前期比 32億円減 26億円
- 営業利益率
 前期比 6.8ポイント悪化 7.3%

研究開発費/設備投資/減価償却費



ADVANTEST.

2016/10/26

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

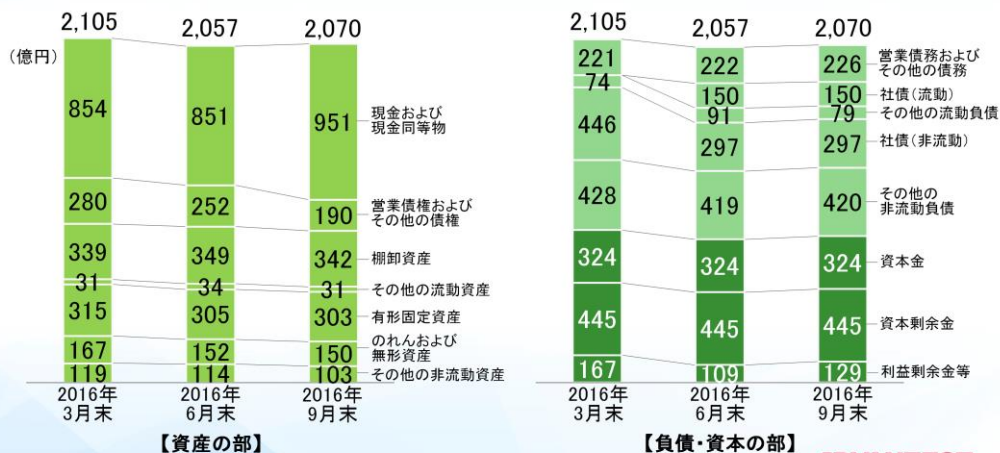
10

○ 2016年度第2四半期の研究開発費等

- 研究開発費 76億円
- 設備投資 10億円
- 減価償却費 9億円

バランス・シート

親会社の所有者に 帰属する持分	936	878	898
親会社所有者 帰属持分比率	44.5%	42.7%	43.4%



ADVANTEST.

○ 2016年9月末時点のバランス・シート

- ・ バランス・シート構成に大きな変化無し
- ・ 親会社の所有者に帰属する持分 898億円
- ・ 親会社所有者帰属持分比率
前期末比 0.7ポイント増 43.4%

2016年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長

黒江 真一郎

2016年度業績予想

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 予想(7月時点)	2016年度 予想(10月時点)	前年度比 増減額	前年度比 増減率
受注高	1,515	1,580	1,580	+65	+4.3%
受注残	335	355	355	+20	+6.0%
売上高	1,621	1,560	1,560	-61	-3.8%
半導体・部品テストシステム事業	1,008	967	1,005	-3	-0.3%
メカトロニクス関連事業	315	276	260	-55	-17.4%
サービス他	299	317	295	-4	-1.4%
営業利益	126	110	145	+19	+15.1%
営業利益率	7.8%	7.1%	9.3%	+1.5pts	
税引前当期利益	118	115	153	+35	+30.0%
当期利益	67	85	120	+53	+79.3%
当期利益率	4.1%	5.4%	7.7%	+3.6pts	
1株当たり年間配当金	20円	-	22円	2円 増配	

✓ FY16 3Q以降の為替前提：7月時点の前提据え置き(1米ドル：100円、1ユーロ：110円)

*2015年度実績：1米ドル：121円、1ユーロ：133円

ADVANTEST.

2016/10/26

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

○ 2016年度の業績予想について

- まず通期の業績予想についてお話しします。
- 為替前提ですが、3Q以降も1米ドル=100円、1ユーロ=110円という見方を据え置きます。
- その上で、足元のビジネス環境と上期までの業績進捗から、2016年度の業績予想を
 - 受注高 1,580億円
 - 売上高 1,560億円
 - 営業利益 145億円
 - 当期利益 120億円

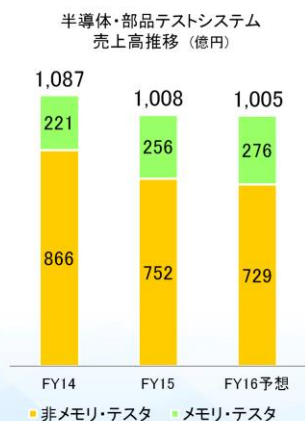
とします。

受注高と売上高の予想に変更はありません。
利益については、年間を通じての製品ミックス改善により
売上総利益率が好転することを踏まえ、上方修正します。

- なお配当につきましては、年間で22円を予定しており2円の増配となる予定です。

各セグメントの今後の見通し

■ 半導体・部品テストシステム



非メモリ・テスト事業

- ✓受注は2Q、売上は3Qが底と予想
- ✓スマートフォン市場の動向から堅調な展開を予想、特に高機能化著しい中国ブランドのスマートフォン販売増はポジティブ
- ✓下期の需要牽引役として、最先端ロジックICの生産拡大に期待
- ✓有機ELドライバIC、液晶ドライバICの需要増、GPU、FPGA、車載関連の市場成長にも期待

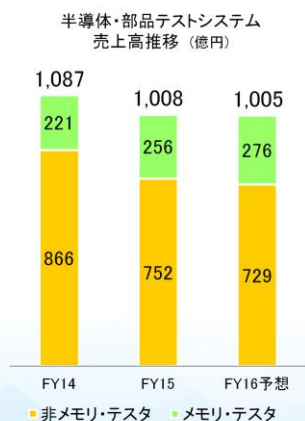
ADVANTEST.

○ 半導体・部品テストシステム事業の見通しについて

- まず非メモリ・テストについて。
- 2Qは受注、売上とも1Q比数字が落ちました。ただこれは、スマートフォンの新製品発売タイミングによって生じる季節性によるもので、当社としては予測していた内容です。
- 下期の見方ですが、全体として底堅い動きが続くと見えています。特に高機能化がめざましく、またインドなどの新興国で端末需要の伸びが見込める、中国ブランドのローエンド/ミッドレンジ・スマートフォンの成長に期待しています。
- その中で、当社の現在予想している線の業績を収められると見えています。受注は2Qが、売上は3Qが底となり、そこからまた年度末に向け数字が戻ってくると予想しています。
- 下期の需要牽引役としては、まず、スマートフォンに高機能化をもたらす、最先端ロジックICの生産拡大に期待をしています。
- また、有機ELや、高機能タッチセンサを組み込んだ液晶パネルに関連したテスト需要の立ち上がりも見込んでいます。
- スマートフォン以外では、GPU、FPGA、車載関連などがこの上期に好調でした。これらが関わっている、VR(バーチャル・リアリティ)、IoT、高速ネットワーク、ゲーム機、ADAS(自動運転支援システム)の市場成長に期待しています。年度末からまた、テスト需要が伸びることを期待しています。

各セグメントの今後の見通し

■ 半導体・部品テストシステム



メモリ・テスト事業

- ✓年明け以降の大きな動きを想定
- ✓DRAMテストは、LPDDR4採用拡大に伴い、年明けからテスト需要が盛り上がる見通し
- ✓NANDテストは、3D NAND向けの新たな量産ラインの拡張投資と連動した需要増を期待
- ✓プロトコル型NANDテストの来年度の需要本格化を予想

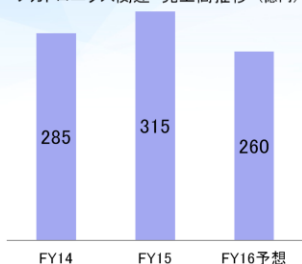
ADVANTEST.

○ 半導体・部品テストシステム事業の見通しについて

- 次に下期のメモリ・テスト市場ですが、DRAM向けもNAND向けも年明けから大きく動き出すと見ています。
- DRAMについては、ミッドレンジ以上のスマートフォンのLPDDR4採用拡大に沿って、年明けからテスト需要が盛り上がっていく見通しです。
- 今勢いのある中国ブランドのスマートフォンは、DRAM搭載容量が相対的に大きいことも、テスト需要にポジティブです。
- 前回の決算説明会でもトピックとしましたが、3D NAND用のテスト需要は、新たな量産ラインの拡張が行われる今年度末から大きく伸びていくと考えています。
- また今後、量産されるハイエンドNANDではインタフェースの高速化が進み、信号のやりとりもプロトコルベースとなります。そうしたUFSやPCIeなどのインタフェースを採用したプロトコル型NANDには、従来のメモリ・テストでのテストとは違った試験手法が必要です。よって新たなテストが必要になります。こちらは来年度の需要本格化を予想しており、現在拡販に向けた準備をしています。
- さまざまな変化がNANDテスト市場に起きようとしている中、しっかりとシェアと売上を確保できるよう取り組みます。

各セグメントの今後の見通し

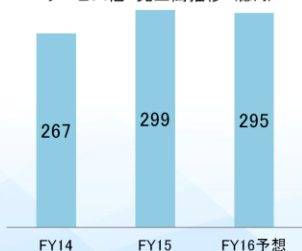
メカトロニクス関連 売上高推移 (億円)



■ メカトロニクス関連

- ✓メモリ顧客の動向から、デバイス・インタフェース事業は戻上がりの展開を見込む
- ✓回復を期待していたナノテクノロジー事業の見通しを引き下げ

サービス他 売上高推移 (億円)



■ サービス他

- ✓円高が重石となるものの前年度並みの売上高を予想
- ✓SSDテストは大手顧客からの商談を獲得、来期以降も期待

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連、サービス他 の今後のポイント

- メカトロニクス事業です。
- デバイス・インタフェース事業は、メモリ・テスト需要に牽引され、3Q、4Qと四半期を追うごとに需要が増加するものと見込んでいます。
- 一方で、ナノテクノロジー事業も下期の回復を期待していましたが、足元の商談状況から、今回見通しを引き下げます。
- サービス他事業です。
- 円高による減収影響が大きい一方、フィールドサービス需要は堅調です。その結果、セグメント全体としては前年度並みの売上高を予想しています。
- また、オールフラッシュ型のストレージ市場が立ち上がる中であって、データセンター向けエンタープライズSSDの今後の需要拡大と、それに連動したSSDテストの売上拡大への期待に変わりはありません。
- 最近も当社のSSDテストは大手顧客からの商談を獲得しました。来期以降にも、期待しています。